

令和4年度安来高等学校魅力化コンソーシアム第1回役員会 報告

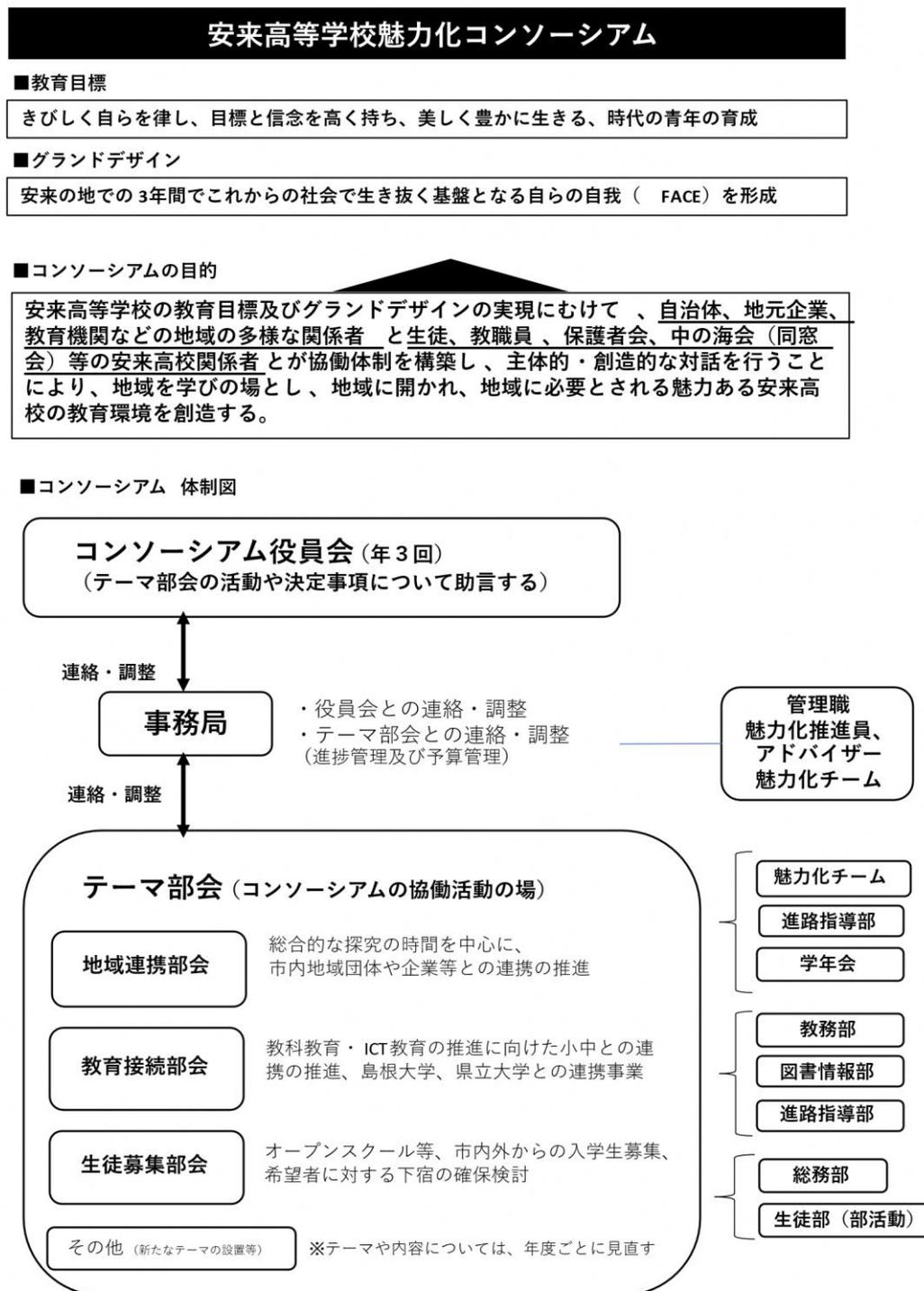
1. 令和4年度安来高等学校高校魅力化コンソーシアム役員会名簿

(順不同、敬称略)

役 職	氏 名	所 属・役職名	
会 長	秦 誠司	安来市教育長	
	真野 善久	安来商工会議所専務理事	
	石原 敬治	安来市商工会事務局長	
	三浦 哲也	島根大学教育研究推進学系特任教授	
	新田 典利	島根県立大学副理事長	
	難波 真章	安来市立赤江小学校校長	
	秦 美沙江 (欠席)	安来市立広瀬中学校校長	
	淀谷 正臣	安来市やすぎ暮らし推進課課長	
	石井美佐子	安来市地域振興課課長	
	平井 薫	安来高校中の海会副会長	
	副会長	柳樂 眞悟	安来高等学校校長
		大江 将幸	安来高等学校 PTA 会長
		井山 詠太 (欠席)	安来高等学校生徒会長



2. 安来高等学校魅力化コンソーシアム 体制図



3. 令和4年度事業計画

(1) 目的

- ・安来高等学校が教育目標に掲げる「きびしく自らを律し、目標と信念を高く持ち、美しく豊かに生きる、時代の青年の育成」を目指し、グランドデザインに描く教育を実現する。
- ・自治体、地元企業、教育機関などの地域の多様な関係者と生徒、教職員、保護者会、中の海会（同窓会）等の安来高校関係者とが協働体制を構築し、主体的・創造的な対話を行うことにより、地域を学びの場とし、地域に開かれ、地域に必要とされる魅力ある安来高校の教育環境を創造する。

(2) 事業計画

令和4年度安来高等学校魅力化コンソーシアム事業計画	
(1) 地域連携部会	
目的	グランドデザインの実現に向けて、安来市、地元企業、社会教育関係機関などの地域の多様な関係者と連携し、生徒の資質能力の向上を目指す。
事業名	総合的な探究の時間「地域探究Ⅰ～Ⅱ」
	<p>「総合的な探究の時間」では探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指している。</p> <p>安来高校では、1年時には、地域の魅力や課題など現状を理解するとともに、探究のサイクルを経験し、探究の見方・考え方を身に付けることを目的としている。2年時には、生徒が自らテーマを設定し、現状分析・実践・検証・振り返りを実施する。なお、テーマ設定は、地域で活躍する社会人や行政等に外部講師として協力頂き、自己の興味関心と地域の魅力や課題等についても考える機会とする。</p> <p>(テーマ分野の例：農工産業、福祉、観光・文化・スポーツ・教育・防災・環境・再生エネルギーなど)</p> <p>(実施計画)</p> <p>地域探究Ⅰ：安来節演芸館の課題を解決する学習を通じて探究サイクルを理解する。(対象 1年生)</p> <p>地域探究Ⅱ：テーマを設定し、仮説に基づいてアクションを起こし検証する。探究学習の成果を発表し振り返る。(対象 2年生)</p> <ul style="list-style-type: none">・テーマ設定 5～6月末・グループ探究(調査・分析・実践・検証) 6月～2月 <p>活動の実施にあたっては、地域の実践者に助言を得ながら活動を実施。</p> <ul style="list-style-type: none">・中間発表 10月

	・成果発表会・振り返り 3月
事業名	安来市内企業の理解促進「進路学習Ⅰ～Ⅲ」
	<p>高校生が卒業後の進路（高卒就職及び大学進学）を具体的に検討するうえで、地元企業の魅力について周知する。大学進学を希望する生徒に対しても、企業の魅力や課題等を理解し、学問的な興味関心を高め、学部選びや大学卒業後の市内及び県内就職につなげる。</p> <p>（実施計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内企業見学（対象 1年生） 主催 やすぎ暮らし推進課 ・進路学習（対象 1~2年生）系統別ガイダンス、講演会 等
（２）教育接続部会	
目的	島根大学及び島根県立大学等、また市内小中学校等との主体的な対話により、事業をより一体的に進め、魅力ある教育環境を作る。
事業名	高大連携事業
	<p>① 県立大学連携 高校生向け「KENDAI 未来アトリエ」の先行実施 安来市は、安来商工会議所、安来市商工会とともに令和4年3月に公立大学法人島根県立大学との包括連携に関する協定を締結した。本協定により、産官学が協働で、お互いの強みを活かしながら地域の課題解決や人材育成に取り組んでいく。令和4年度に、高校生のキャリア開発及び人材交流を目的とした「KENDAI 未来アトリエ」（島根県立大学基礎教養部 入試改革・高大連携推進室）を安来市において先行的に実施する。</p> <p>（実施計画）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議及び広報開始 4月下旬 ・オンデマンド 5月下旬 ・ディスカッション及びワークショップ 6月～9月 全3回（半日） 定員 30名（安来高校及び情報科学高校） <p>② 島根大学 次世代たたら共創センター連携 NEXTA「理系人材育成に向けた中高生向け体験プログラム（案）」の実施 安来市は日立金属株式会社安来工業及びグループ企業を中核として多くの企業が存在し、特殊鋼関連産業クラスターを形成している。また、平成31年内閣府「地方大学・地域産業創生交付金事業」に「先端金属素材グローバル拠点の創出」が採択され、島根県内の特殊鋼企業と島根大学が、それぞれが蓄積した知見を相乗的に発展させて、新材料の研究開発を行い、これら研究開発を通して若者に魅力ある就学・就業の場を作り、地方創生推進を目指している。安来市在住の中高生において、理系分野における大学進学及び卒業後の地元就職の意識醸成につなげる。</p>

	<p>(実施計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プログラム内容協議 4月～6月 ・市内中学校向けの広報、協議 7月 ・中高生体験プログラム(安来版 NEXTA フレンズ) 8月または3月 定員15名程度(中高生・教員)
事業名	小中高連携事業
	<ul style="list-style-type: none"> ・市内小中学校のICT教育のモデル校(伯太地区)への授業見学等の実施 ・学力向上プロジェクト(数学)のモデル事業(安来三中、荒島小学校)に関する協議会等への参加 ・安来高校「授業公開ウィーク」の実施 7月 ・総合的な探究の時間やキャリアパスポートなどの校種を越えた情報交換の実施 など
(3) 生徒募集部会	
目的	市内唯一の普通科高校として多様な進学希望を実現するために、4クラス規模の維持を目指す。そのために、市内入学率の増加及び市外からの入学希望者の増加を目指す。
事業名	情報発信の充実
	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒募集に向けた地元中学生向けの情報発信(全戸配布チラシ) ・中学校への個別訪問など
事業名	下宿環境の整備
	<ul style="list-style-type: none"> ・安来市と連携しながら、下宿生の生活環境向上に取り組み、バレー、フェンシング部等への入部を目的とした入学希望者に対し情報を発信(令和4年度より新規) ・市内の下宿環境確保について中長期的な計画の検討
事業評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市内全戸配布広報 年10回、SNSでの日常的な情報発信 年30回 ・アンケートまたはヒアリング
(4) 事業評価	
<p>【魅力化評価システム】(毎年7月実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各項目の伸び 「将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい R3 49.8%」 「将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う R3 60.5%」 「いま住んでいる地域の行事に参加した R3 36.5%」 「地域社会などでボランティア活動に参加した R3 30.6%」 など <p>【ループリック評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「発信力」「課題発見解決力」「当事者意識」「自己理解」「協働する力」の伸び <p>【市内入学率の伸び】</p>	

※安来市内入学者割合（参考）

H13	37%	（市内入学者 194 名／市内中卒者 531 名）
H18	32%	（市内入学者 133 名／市内中卒者 414 名）
H23	37%	（市内入学者 133 名／市内中卒者 404 名）
H28	36%	（市内入学者 114 名／市内中卒者 373 名）
R3	35%	（市内入学者 126 名／市内中卒者 362 名）

（４）実施スケジュール

テーマ	事業名	4～6月	7月～9月	10月～12月	1月～3月
地域連携部会	探究学習	→			通年
	地元企業理解			企業見学 11月	
教育接続部会	高大連携 （島根県立大学）	←→			
	（島根大学）	6月	～9月		春休み時期
	中高連携	→			通年
生徒募集部会	情報発信の充実	→			通年
	下宿環境の整備				

4. 主な意見

- ・商工団体としての課題：日立金属の資本提携、労働力不足、後継者不足、地元の人材を地元で育てる必要性。
- ・小中学校から見て、安来高校は安来にとって大事な学校であり、また近くて遠い学校でもある。
- ・学校やコンソーシアムの取り組みをどのように知ってもらい広めていくか。学校日より、同窓会報、SNS、小中高の間での交流等を活用して。
- ・「総合的な探究の学習」や「ICTを活用した学び」について、小中学校の先にあるものを高校に見せてほしい。
- ・県の学力向上プロジェクト（算数・数学）の指定校に安来三中と荒島小、安来高校にも協力してほしい。
- ・生徒目線での魅力が大事。魅力ある学校は、いいところだけではなく、大人がもつ悩みや苦しみなどを見せることが大切ではないか。カッコいい大人だけでなく、苦しんでいる、もがいていることも等身大で伝えるのがいい。そこをちゃんと発信できるのが魅力ある学校だと思う。